

<コンテンツ専門調査会>

2003 - 10 - 15

岡村 正

ユビキタス社会が到来する中で、コンテンツ産業を日本を代表する産業として育成していくことは重要であり、その道筋を本専門調査会において明らかにすることは極めて意義深いことと考えます。この目的を実現するためには、あらゆるコンテンツ産業に係る全ての業界が一致団結して施策を提言することが必要です。現在のコンテンツ産業に係わる個人、団体は、制作者、流通業者、送配信業者、各種機器メーカ等多岐にわたっており、その推進母体を一本化して行かねばなりません。私も本会の議論に積極的に参画し、微力乍らお役に立ちたいと考えております。

今回は日程が合わず、残念乍ら欠席させていただきますが、電機メーカの立場から申し上げたいことを以下に記させていただきます。

コンテンツビジネスが拡大、成長していくためには、コンテンツそのものの質を高めることと同時に、流通のための仕組み作りが必要と考えています。我々電機メーカは、ハードの開発と共に、コンテンツの不正コピーを防止する技術も開発していますが、真の情報化社会を実現するためには、コンテンツメーカとの共同した仕組み作り、ルール作りが必要と考えています。コンテンツの流通はますますボーダーレスになっており、それと共に、「著作権の保護」がコンテンツ制作者の最大の関心事となっております。CD や DVD などのデジタル制作物は、単体でも制作者はコピープロテクションに神経を使います。しかし、ネット配信となるとコピーの規制はさらにむずかしくなり、セキュリティー技術は高度化していかざるをえません。

我々は、国際標準となる技術を確立し、世界へ進出していく必要性を感じており、コンテンツ産業の流通促進、国際展開と協調した環境作りが必要であると考えています。コンテンツ流通の国際環境作りを日本の官民が協力して作りあげることは、産業としての一体感をもたらし、相互に協力した態勢が築かれることです。世界をリードした環境を構築することは、日本のコンテンツ産業の発展に必ず寄与することを確信しています。

以上